令和4年度 社会福祉法人淳邦会 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘 地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール デイサービスセンター オパール オパール居宅介護支援事業所 福田高齢者支援サブセンター グループホーム ひなぎく

育成推進室

特別養護老人ホーム のぞみ荘 (ショートステイを含む)

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で 安定した生活が送れるよう支援を行った。

面会制限や恒例行事の中止など楽しみの少ない中でも安心して生活が送れるよう 共有できる時間を大切に過ごし、行事を工夫して行うことで入居者の笑顔が少しでも 引き出せるように取り組んだ。

事故においてはリスク委員を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては 12 月に施設内クラスターが発生したが、医療・看護・介護が連携し、早期に収束することができた。今後も対策の徹底(マスク着用や手指消毒、定期的な換気、消毒など)により職員全体で取り組んでいきたい。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては看取り介護加算取得に向け研修を実施し、入所者や家族の意 向に沿って8事例対応し、そのうち看取り介護加算を4事例取得することができた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。コロナウイルスの市中感染による実習の変更等にも柔軟に対応した。

地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

・優秀な福祉人材を育成する

特定技能実習生を採用するにあたり、指導できる体制づくりを行うことができた。 研修については、WEB研修を活用し研修を実施した。また、密にならないよう研修 方法を工夫し委員会主導の研修を計画的に実施した。また、感染対策を行なった上で 外部から講師を招き研修を開催した。

人が活きる職場環境を整備する

電子記録の本格的導入により職場環境改善を行った。 職場環境の改善策として電動ベッドを増加導入し、労働環境の改善を図った。

安定した経営を継続する

平均稼働率は94.8%(目標95%、令和3年度実績91.8%)と目標には届かなかったが昨年度に比べ3%の微増となった。

ショートステイは 47.5% (目標 50%、令和 3 年度実績 34.1%) と目標には届かな

かったが、昨年度に比べ13.4%増加となった。

武田病院と合同で毎週開催する効率化推進会議において空床管理をすすめ、スムーズな入居が出来るように次候補の確保に努めた。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練及び地震対応訓練を実施、福祉避難所においては 台風時期に速やかに受入数を報告するなど柔軟に対応した。

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で 安定した生活が入居者のペースで送れるよう支援を行った。

面会制限や恒例行事の中止など楽しみの少ない中でも安心して生活が送れるよう 行事等を工夫し入居者の笑顔が少しでも引き出せるように取り組んだ。また、居室の 整備に努め心地いい環境づくりを継続するとともに定期的なミーティングで対応を こまめに検討し入居者の生活のペースを重視した支援を行った。

事故においてはリスク委員を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては、職員が数名コロナ罹患したが、対策の徹底(マスク着用や手 指消毒、定期的な換気、消毒など)により利用者への感染を防ぐことができた。今後 も職員全体で取り組んでいきたい。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続 的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては看取り介護加算取得に向け研修を実施し、入所者や家族の意 向に沿って2事例対応し、そのうち看取り介護加算を2事例取得することができた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。コロナウイルスの市中感染による実習の変更等にも柔軟に対応した。

従来型特養と一体的に取り組み、地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

・優秀な福祉人材を育成する

WEB研修を活用し研修を実施した。また、密にならないよう研修方法を工夫し委員会主導の研修を計画的に実施した。

感染対策を行なった上で外部から講師を招き、従来型特養と一体的に研修を開催した。

・人が活きる職場環境を整備する

電子記録の本格的導入により職場環境改善を行った。

職場環境の改善策として電動ベッドを増加導入し、労働環境の改善を図った。

安定した経営を継続する

今年度の平均稼働率は94.6%(目標95%、令和3年度実績92.6%)目標には届かなかったが昨年度に比べ2%の微増となった。毎週開催する効率化推進会議で空床管理

をすすめ、スムーズな入居が出来るように次候補の確保に努めた。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練及び地震対応訓練を定期的に実施した。

I 入所者の状況

【入退所状况】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	2	0	2	1	1	0	4	1	1	4	2	2	20
退所者	1	1	1	2	0	1	4	2	4	2	4	0	22

【介護度別入所者延べ人数】

従来型(50)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護2	60	62	57	62	62	60	47	30	31	31	28	31	561
要介護3	344	341	382	385	434	415	456	483	501	493	420	424	5078
要介護4	480	479	431	465	459	445	459	443	377	421	431	427	5317
要介護5	520	558	547	570	535	585	496	455	442	464	185	478	5835
稼働率	95.6	94.9	96.5	97.6	98.1	95.7	96.1	96.1	89.2	92.9	93.7	91.7	94.8

地域密着型(20)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	60	62	60	62	62	60	62	30	62	31	28	31	610
要介護3	240	234	207	248	248	240	218	159	135	217	216	248	2610
要介護4	120	109	114	164	164	120	130	120	124	124	112	124	1525
要介護5	180	186	180	186	186	180	186	210	216	203	178	184	2275
稼働率	100.0	95.3	93.5	100.0	100.0	100.0	96.1	91.5	84.4	83.7	95.4	94.7	94.6

注)入所者数は、医療機関への入院者は除く

【要介護度】

令和5年3月31日 現在

	1	2	3	4	5	平均要介護度
従来型	1	1	15	15	16	3.92
ユニット型	0	1	8	4	6	3.79
合計	1	2	23	19	22	3.88

Ⅱ 短期入所(ショートステイ)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用人数	18	22	17	21	22	21	18	15	14	17	16	14	17.9
利用延べ日数	266	273	240	300	366	361	292	260	225	315	267	306	289.3
人数/1日	8.87	8.81	8	9.68	11.81	12.03	9.42	8.67	7.26	10.16	9.54	9.87	9.5
平均介護度	3.06	2.86	2.82	2.43	2.73	2.71	2.94	3.40	3.43	3.29	3.19	3.43	3.02
稼動率	44.3	44.0	40.0	48.4	59.0	60.2	47.1	43.3	36.3	50.8	47.7	49.4	47.5

在宅支援部 ケアハウス オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

自発的に参加できるお茶会の雰囲気作りに努め、開催時には、月間の予定や行事等の情報共有を図った。季節ごとに流行する感染症や、コロナについて、常に新しい情報の提供を心掛け、入居者には知識を深めて貰うとともに、日常生活においての感染に対する注意喚起を促し、職員も環境等の感染対策の継続に努めた。行事については、感染対策を行い、短時間ではあるが、入居者同士の交流や、気分転換、季節感を味わってもらう為、花見や夏、冬の食事会等を行い、入居者同士の交流や生活の質の向上に努めた。

・安定した経営を継続する

入居者の体調やADLの状態を日頃から注意深く観察し、他部署との情報共有に努め、体調不良時には早めの病院受診を促した。入居者の入れ替わりもあるが、前年の入院日数277日が、本年度は187日と減少している。

平均稼働率は 93.3%と目標の 95%には届かなかったが、前年の 86,4%からは 6.9% 向上している。時間を見つけて、他部署職員の営業に同行し、営業活動を行ったり、FAX を流して空床状況を発信した。 県北等、今まで営業をしていなかった所にも少しずつではあるが電話をかけ、FAX 営業を行い、 県南にご家族がお住いの方等に、ケアハウスオパールを知って頂けるように努めた。

I 入居者の状況

【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男 性	180	186	180	186	186	180	186	167	155	155	171	217	2149
女 性	240	248	240	248	272	270	279	257	248	221	203	235	2961
合 計	420	434	420	434	458	450	465	424	403	376	374	452	5110
稼動率	93.3	93.3	93.3	93.3	98.5	100.0	100.0	94.2	86.7	80.9	89.0	97.2	93.3

【退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男 性	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
女 性	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
合 計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	4

【年齢構成】 令和5年3月31日 現在

年 齢	60~70歳	71歳~80歳	81歳~90歳	91歳以上	合 計
人数	0	5	9	1	15

Ⅱ 介護状況

【要介護度】 令和5年3月31日 現在

介護度	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	2	0	1	9	2	1	0	0	15

【介護サービス利用状況】 令和5年3月31日 現在

介護サービス	ホー	ムヘルプサー	・ビス	デイサービス	デイケア	福祉用具 レンタル	訪問看護
月暖り「ころ	生活援助	身体介護	介護タクシー		7477	価値用兵 レングル	1/川川/目 曖
利用人数	11	3	4	6	2	9	3

在宅支援部 デイサービスセンター オパール

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

グループ別活動プログラムを毎月のミーティングにて振り返り、改善を行うことにより、現状に沿った、身体、及び、認知機能維持、向上への機会を提供することができた。職員主導が強く、利用者が主体的な選択には課題が残る。プログラムの流れが理解され、ご利用者の意欲が向上し、在宅生活の継続に視点をおいた通所介護計画を実行することができた。新たな取り組みとして、自宅でのホームワークの実施により、通所サービスとの連続的な支援を達成することができた。

電子記録により、職員間の申し送り時間を大幅に短縮できた上、正確性が増した。 その余力を、利用者への付加サービスの充実に当てることができた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

実習生の受け入れに関して、どのように実りある実習とするか試行錯誤することにより、地域の福祉人材確保への貢献、また、職員自身の成長にも繋げることができた。 地域交流として、小学校や保育園、こども食堂への壁画制作を実施する計画を起案することができた。今後、実現に向けて、継続的な検討を行う。

・優秀な福祉人材を育成する

職員の研修への意欲が向上し、1名は認知症実践者研修へ、1名は更なる高みへ介護福祉士、実務者研修へ参加。社内研修にも積極的に参加。毎週、短時間で行う職員ミーティングや月1回のケアプラン会議は検討項目の要点を整理して時間の短縮に努めるなど効率的に開催した。実習生の受け入れによりコーチングスキルの向上につながった。

安定した経営を継続する

地域のケアマネジャーや関連事業所へ訪問や FAX 等の定期的な情報提供を継続し、関係を強化することで、稼働率目標である 60%を達成した。次の目標として、関係機関との連携強化と活動プログラムの充実によるサービスの質の向上で稼働率 75%、定員 25 名 ➡1 日平均利用者数が 18.75 名を目指す。当法人の入り口の役割であるデイサービス利用者の獲得により、他事業所への貢献度を増していく。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

ひやりはっとの原因、対策検討の継続により、「事故ゼロ」を継続した。法令遵守 の徹底を図ることは勿論、接遇向上への取り組みを強化した。

I 利用者の状況

【利用状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	13	14	8	9	0	0	0	4	4	1	4	5	62
要支援2	8	8	7	9	1	0	0	0	0	0	0	4	37
要介護1	175	178	184	167	168	192	174	178	195	178	177	224	2190
要介護2	81	91	84	76	85	64	75	81	98	86	76	82	979
要介護3	32	39	45	45	44	58	58	64	51	51	44	40	571
要介護4	8	7	6	8	0	0	1	9	9	7	0	0	55
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	317	337	334	314	298	314	308	336	357	323	301	355	3894
営業日数	21	22	22	21	23	22	21	22	22	20	20	20	256
稼動率	60.6	61.3	60.7	59.8	52	57.3	58.9	61.1	64.9	64.6	60.2	61.7	60.3

【年齢構成】 令和5年3月31日 現在

年	齢	40~64歳	65~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	合計
人	数	0	1	7	16	12	36

【要介護度】 令和5年3月31日 現在

介護度	要支援1	要支援2				
人数	0	3				
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	19	9	4	1	0	36

在宅支援部オパール居宅介護支援事業所

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

定期的に要介護利用者のケアプランを事業所内でチェックする仕組みを業務に組み込み、実施することでより質の高いケアプランを作ることができた。今後もケアプランの質を高める取り組みを模索する。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

地域に出る以外の方法で情報発信ができないか検討したが有効な案が出ず、活動を 実施できなかった。

・人が活きる職場環境を整備する

施設内外の研修に年13回参加しており、研修内容も事業所内で共有できた。

・安定した経営を継続する

定期的な高齢者支援センターへの訪問と受け入れ状況を伝える FAX で令和 4 年度の稼働率は微増した。また、新規利用者の受け入れも平均月 1 件と安定して行うことができた。

I 利用者の状況

【年齢構成】 令和5年3月31日 現在

年 齢	~64歳	65~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳以上	合 計
人 数	1	3	11	27	10	52

【要介護度】 令和5年3月31日 現在

介護度	介護予防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	19	15	13	3	1	1	52

【月別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護給付	30	29	28	28	27	29	29	29	29	29	31	33	351
介護予防	15			17	18	17	16	15	16	15		14	14
総合事業	4	3	4	4	4	4	4	5	5	6	5	5	53
計	49	47	48	49	49	50	49	49	50	50	50	52	592

Ⅱ サービス利用状況

令和5年3月31日 現在

種類	Į .	訪問介護	通所介護	短期入所	福祉用具貸与	その他	合 計
人数		13	13	4	22	22	74
うち淳邦会	1-		6	3			9

在宅支援部 福田高齢者支援サブセンター

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

今年度は感染症の状況に合わせてではあったが、対面での高齢者支援センターの研修や勉強会に参加することで地域の社会資源や他機関との顔を合わせての情報交換をする場ができた。8050問題や家族を含めた生活支援などが必要とされるなか、他機関と連携し、公的なサービスだけではなく生活の中で高齢者へ情報を得ておくことで、地域で生活する高齢者の生活への支援を行えるよう今後も努めたい。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症の状況によるものの地域でのサロン活動や百歳体操の活動が再開され活動 支援に伺う機会もあった。しかし高齢者支援センター主催の移動相談会や作品展の活動は感染症の対策などの問題により今年度中の再開には至らなかった。令和5年度に は水島地区全体の高齢者支援センターでの移動相談会の再開が計画されており、ここ 数年出来ていなかった地域に出て活動によりセンターのPR活動も積極的に努めたい。

I 総合相談事業等実績報告

		電話	来所	訪問	その他	合計
介護予防事業		0	0	0	0	0
総合事業		0	0	0	0	0
予防給付		0	0	0	0	0
権利擁護		0	0	0	0	0
高齢者虐待	身体的	0	0	0	0	0
	経済的	0	0	0	0	0
	精神的	0	0	0	0	0
	性的	0	0	0	0	0
	介護放棄	0	0	0	0	0
福祉相談•手線		23	6	36	0	65
介護保険・手続	売き代行	14	1	5	0	20
健康•医療		21	3	38	0	62
高齢者以外を対象		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
合 🎚	計	58	10	79	0	147

在宅支援部 グループホーム ひなぎく

・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

コロナ感染症対策として予防・検査・ワクチン接種を継続して行った。しかし、計4名の感染者が出てしまい、定例となっていた行事が中止となり面会・外出もできない日々が続いた。

しかし、ひなぎく独自で工夫を凝らし、個別対応やイベントで入居者一人ひとりと 一層深い関わりができた。また、違った行事を試みたことで、入居の楽しみを見つけ てもらうことができた。

・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症の影響により、定期的に行っていた運営推進会議が中止となってしまった。 こちらからの情報発信のみとなってはいたが、新たな施設との交流を結べたことで違ったやり取りが行えたと思う。

感染症対策を取りながら、実習生の受け入れは変わりなく継続することができた。

・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修には可能な限り、進んで参加している。研修で得た情報はひなぎくへ持ち帰り、不参加者は後日、確認している。2か月に1度の「身体拘束・虐待防止」の勉強会を繰り返し行うことで、介護や接遇に対して意識を高めることができたと思う。今後は、利用者の高齢化が進むにつれて高まるリスクについての学習も強めていきたい。

安定した経営を継続する

空室状況を考えながら入所相談に適切な対応を行い、申し込みにつなげた。年度後半には病気による入院が重なった結果、利用実績が低下してしまい稼働率は93.5%と目標に達することはできなかった。今後は申込者に継続的に連絡を行うことで入所希望を継続してもらい、退去後の空室期間を短縮するよう努めたい。

・業務管理体制(法令等遵守)を徹底する

被災時の対応や業務の流れ、手順マニュアルをそれぞれ見直したり新たに作成したりして、職員同士の動きを共有できるようになった。度重なる事故に対しては原因究明や改善策の検討を重点的におこない、事故減少に取り組む。

I 入居者の状況

【入居状況】延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	120	124	120	124	124	120	147	150	155	155	84	93	1516
要介護2	120	155	120	115	66	62	93	90	93	101	105	124	1244
要介護3	150	155	180	186	188	180	186	180	186	206	196	217	2210
要介護4	90	93	90	93	93	90	93	76	62	31	0	0	811
要介護5	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	84	71	461
合 計	510	558	540	549	502	482	550	526	527	524	469	505	6242
人数/日	17.0	18.0	18.0	17.7	16.2	16.1	17.7	17.5	17.0	16.9	16.8	16.3	17.1
稼動率	94.4%	100.0%	100.0%	98.4%	90.0%	89.3%	98.6%	97.4%	94.4%	93.9%	93.1%	90.5%	95.0%

注) 入院者は除く

【要介護度】令和5年3月31日 現在

介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
人数	0	3	4	7	0	3	2.76

【年齡構成】令和5年3月31日 現在

年 齢	~64歳	65~79歳	80~89歳	90歳以上	合計
人 数	1	1	9	6	17